

津市の外国につながる子どもの教育について

1 外国につながる子どもとは

外国籍の児童・生徒だけでなく、日本国籍を持っていても外国にルーツをもつ児童生徒をいいます。

日本語が全く理解できないまま外国から呼び寄せられたり、日本で育っていても家庭内で使われている言語が日本語以外だったりするなど、母語が日本語以外であるために、日本の学校で学習するために配慮が必要な児童生徒がいます。

津市の小中学校に在籍する「日本語指導の必要な外国につながる児童・生徒数」は51校に602名、母語とする言語の数は24言語です。（平成29年5月1日調査）

2 現況

- (1) 日本語指導の必要な外国につながる児童生徒数は、年々増加している。
（H29年5月1日調査：602名 51校 24言語）資料①
- (2) 現在、津市内で就学年齢の外国人児童生徒で不就学状態のものは0人。
（H28年度14件対応：家庭訪問数23回）資料②
- (3) 外国人生徒高校進学率は、年々上昇し、多様な進路が取れるようになってきています。（調査開始時H18年度：56.3%→H28年度：94.2%）資料③

3 津市の外国につながる子どもの教育の支援

津市の外国につながる子どもの教育の支援については、主に次の4点を柱に関係各課や市民活動団体、市民の協力のもとに事業を実施しています。

(1) 初期日本語指導の充実

ア ねらい

- ・基本的な生活言語（日常生活の中でコミュニケーションに必要な言語）をできるだけ短期間で身につけます。

イ 主な取り組み

- ・「津市日本語指導カリキュラム」の作成
- ・初期日本語指導教室「きずな」と「移動きずな」教室の実施
きずなボランティア（日本語指導ボランティア）の数は現在55名（H28年度：64名）
- ・日本語指導ボランティアの育成

(2) 初期日本語指導を終えた児童生徒の支援

ア ねらい

- 学力を保障するため、外国につながる児童生徒の日本語能力の現状把握に努め、各児童生徒に応じた支援を行います。

イ 主な取り組み

- 「津市版日本語能力把握スケール」の作成
- 日本語能力判定会議の実施
- 日本語教育担当者の研修の実施

(3) 外国につながる生徒の進路保障

ア ねらい

- 外国につながる生徒の進学に対する関心と意欲を向上させ、中学校卒業後に本人の能力と資質に応じて多様な進路をとれるように支援します。

イ 主な取り組み

- 高校進学ガイダンスの実施
- 三重大学見学ツアーの実施（H29年度から）

(4) 外国につながる子どもの不就学への対応

ア ねらい

- 就学年齢の子どもを持つ外国人住民に対して、日本の学校について理解を図り、不安を軽減します。

イ 主な取り組み

- 就学ガイダンスの実施
- 「日本の学校について」の多言語パンフレットの作成（9言語）
- 家庭訪問の実施